

平成26年度 入 試 【推薦入試Ⅰ】

小 論 文 問 題

(教育学部 学校教育課程Ⅰ類)

人間生活環境教育専攻

注 意

- 1 問題紙は、指示があるまで開いてはならない。
- 2 問題紙2ページ，解答用紙 2枚，下書き用紙2枚である。
指示があってから確認し，解答用紙と下書き用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 解答は，解答用紙に清書すること。
- 4 問題紙は，持ち帰ること。

平成26年度 推薦入試 I

問題訂正

科目：小論文

(教育学部 学校教育課程 I 類 人間生活環境教育専攻)

1 ページ

問 1 (3)

(誤) 「食品添加物を使用する目的、用途、表示方法などについて・・・」

(正) 「食品添加物を使用する目的、用途、表示方法について・・・」

2 ページ

問 2 図 3 タイトル

(誤) 図 3 家庭内事故の種類別にみた年齢別構成割合

(正) 図 3 年齢別に見た家庭内事故死の種類

問 2 (2)

(誤) 「図 3 は家庭内事故の種類別死亡者数である。・・・」

(正) 「図 3 は年齢別に見た家庭内事故死の種類である。・・・」

問1. 食物が健康を保つものであるためには、安全であることが前提となる。食品の安全性について(1)~(4)の問いに答えなさい。

(1)食中毒について 100 字以内で説明しなさい。また、食中毒を予防するためには、「つけない、増やさない、死滅させる」の3原則が重要だとされている。つけない、増やさない、死滅させるための具体的な食中毒の予防策を、それぞれについて1つずつ示しなさい。

(例 つけない；まな板など調理器具の加熱殺菌)

(2)食物アレルギーについて 100 字以内で説明しなさい。また、食品のアレルギー表示について、食品衛生法で表示が義務づけられている7品目を示しなさい。

(3)食品添加物を使用する目的、用途、表示方法などについて 300 字以内で簡潔に示しなさい。

(4)ある食品添加物の使用量等の最大限度が、食品 1kg あたり 2.5g だとする。最大限度の量を使用したときの濃度は何%に相当するか、小数点第2位まで答えなさい。

問2. 「家庭内事故」について、下記の問いに答えなさい。

- (1) 図1は家庭内事故にあった人の年齢の内訳、図2は家庭内事故死にあった人の年齢の内訳である。2つの図から読み取れることを、200字以内で説明しなさい。
- (2) 図3は家庭内事故の種類別死亡者数である。この図から読み取れる、幼児と高齢者と死亡の傾向について200字以内で説明しなさい。
- (3) 家庭内事故を防ぐためには住宅における配慮が必要となる。(1)(2)の傾向から、幼児と高齢者それぞれについて、住宅内の空間を1つあげ、そこで起こる事故の例とその事故を防ぐための具体的な配慮の方法についてまとめなさい。以上は400字以内で述べなさい。

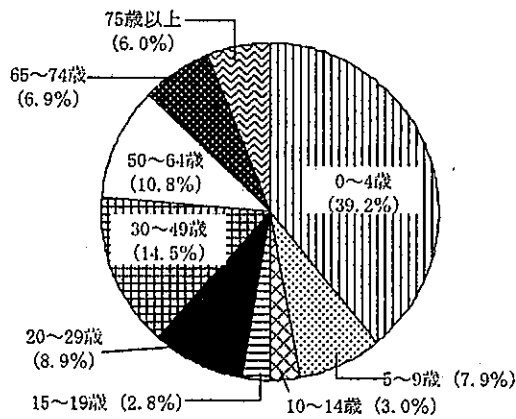


図1 家庭内事故にあった人の年齢
(国民生活センター「家庭内事故に関する調査報告書(1999年)」より作成)

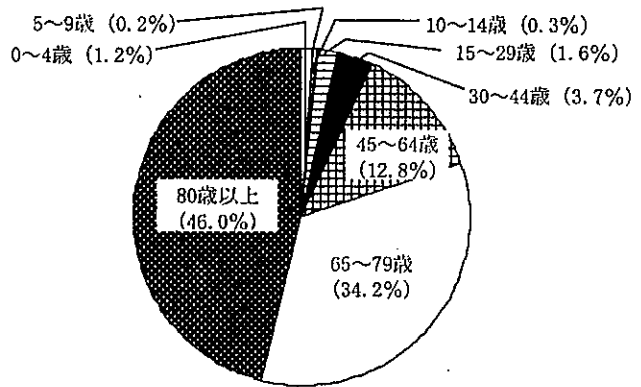


図2 家庭内事故死の年齢
(厚生労働省「人口動態統計(2010年)」より作成)

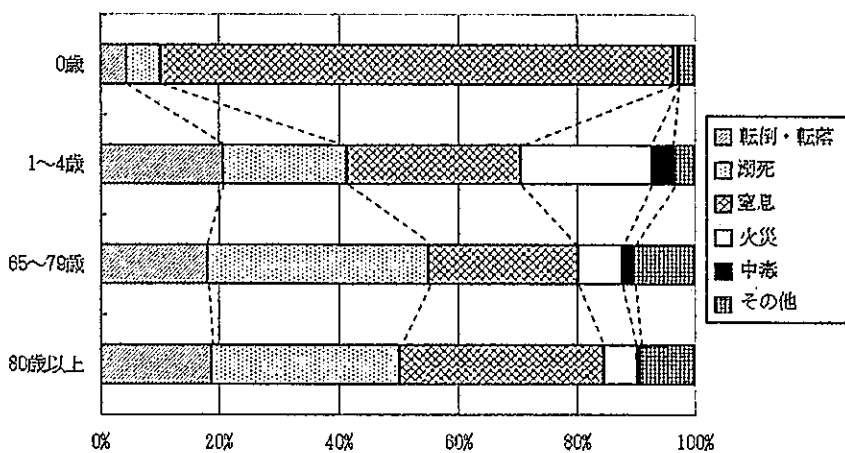


図3 家庭内事故の種類別にみた年齢別構成割合
(厚生労働省「人口動態統計年報 主要統計表(2011年)」より作成)